

会 議 録

平成 29 年 7 月 21 日 調整

審議会等名	平成 29 年度 第 1 回 図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	平成 29 年 6 月 27 日 (火) 午後 2 時～4 時 30 分
開催場所	三条市立図書館 2 階 視聴覚室
傍聴者の有無	有 (三條新聞 白山記者)
出席者氏名	<p>【協議会委員】</p> <p>五十嵐章雄委員長 小林徹哉委員 近藤恵子委員 関谷恵子委員 山田彫子委員 六原佳子委員 長谷川優子委員</p> <p>【説明のための職員】</p> <p>金子生涯学習課長 齋藤生涯学習課長補佐 阿部生涯学習推進係長 伊藤生涯学習課主任</p> <p>【指定管理者】</p> <p>北浦館長 菊埼業務責任者 竹内副責任者 村山副責任者</p>
協議題	<p>(1) 委員長・副委員長選出について</p> <p>(2) 平成 28 年度の図書館利用状況について</p> <p>(3) 平成 29 年度の運営計画について</p> <p>(4) 平成 29 年度 4 月以降の利用状況について</p> <p>(5) 第 2 次三条市子ども読書活動推進計画進捗状況について</p> <p>(6) その他</p>
生涯学習課長	(あいさつ)
出席者全員	(協議会委員、生涯学習課員、指定管理者職員の順で自己紹介)
図書館長	<p>協議題(1)「委員長・副委員長の選出」について、自薦又は他薦など意向をお聞かせ願いたい。</p> <p>無いようであれば、事務局から五十嵐委員を委員長に、倉品委員を副委員長に推薦させていただきたい。</p>
各委員	(異議なし)
図書館長	それでは、五十嵐委員に就任いただき、以降の議事進行をお任せしたい。
五十嵐委員長	協議題(2)「平成 28 年度の図書館利用状況について」の説明をお願いします。
図書館長	(「平成 28 年度の図書館利用状況について」説明)
五十嵐委員長	利用者が増えないという状況があるが、それについて意見はあるか。
山田委員	子どもというのは小学生以下か。そうであれば、一般の範囲は非常に広い。中高生は部活や受験で忙しく、本を借りに来る人が少ないとか、平日の昼間は退職された方が中心等推測できるが、具体的にどの年代が落ちていて、どこに手当てをしなければいけないかが、13 歳以上という中では、データとして見えてこない。年代を若年やシニアな

	どに分けてみると問題点が見えてくるのではないか。
五十嵐委員長	年代を分けて考えると、特に落ち込んでいるような年代が見えてくるかもしれない。貸出し者が減れば、貸出し冊数も当然減ってくる。
長谷川委員	登録者がマイナンバーカードで増えたというのは、全く新規の方が増えたということか。
図書館長	移行作成と新規作成をデータとして取っているが、新規が多い印象を受けている。
生涯学習課長	マイナンバーカード登録時に、いろいろな機能を付けられるので、図書館カード機能も付けておこうという方が多く、登録者数に影響しているのではないかと分析している。
五十嵐委員長	図書館で本を借りる意思がなくても、とりあえず付けておこうという人もいる。登録者が増えても、貸出しが増えるとは言えないということか。
生涯学習課長	図書館の主な施策の中では、読み聞かせなどの施策が本に親しんでもらうことにつながっていると思われる。一般への貸出しは、やはり年代層を区切った分析があると、今後どのような対応をしていけばいいのかが見えてくると思うので、検討していただきたい。
五十嵐委員長	なかなか難しい問題である。
六原委員	人口は減っているが、急に減ったわけではない。昔、中高生は、図書館を利用していろいろな調べものをしたが、今はインターネット等で簡単に調べることができるので、図書館はそれ以外の魅力を探していかなければならない。はやっているような本だけを並べておけばいいということではない。難しい岐路に立たされていると思う。
長谷川委員	図書館では、Wi-Fi は学習室だけしか使えない。利用者端末以外にも、スマートフォンを使って、図書館のホームページを検索できる。Wi-Fi を使いたいという要望はあるか。
図書館長	そういった要望は年に数回受けている。
長谷川委員	構造的に難しいということか。
伊藤主任	最初は調べものに使うということで、1階参考調査室に設置を考えたが、建物の構造上難しかったため2階学習室に設置した。
六原委員	図書館1階に使えるスペースはないのか。
図書館長	自動販売機の契約によってはWi-Fi 機能を持たせるサービスがあると聞いているので、検討してみたい。
五十嵐委員長	パソコン関係と読書は相対するものでもないが、パソコンに流れていく傾向がある。やはり、パソコンは便利なので、本で調べることが下火になっているようなところがある。
山田委員	学習室利用者も入館者数に入っている。今は、多数の人が学習室にいるが、テスト期間なのか。
阿部係長	高校はテスト期間である。

山田委員	いつもの状態ではないのか。
図書館長	日によって違う。やはり試験期間中や入学試験前は利用者が多く、ほとんど席が埋まる時もあるが、常に埋まっているほどではない。
山田委員	学習室が利用されていることは、いいことだ。
図書館長	いかに図書館の方に導くかが課題だと思う。
五十嵐委員長	学習室に入ると、なかなか席から移動しないので、入替えが余りない。入館者的にはあまり数が増えない。
山田委員	学習室が充実すると、人数を呼び込めるかもしれない。そういうことを考えてもよいのではないか。
関谷委員	駐車場が混雑することも入館者数に影響があるのではないか。特に冬場は除雪されていないと行かなくなる。 新図書館ができるのであれば、駐車場が気になる。
五十嵐委員長	以前に比べれば、駐車台数も増えて止めやすくなった。植込みもなくなってスッキリした。 新しい図書館というと、駐車場は増えるのか。
生涯学習課長	旧三条小学校のグラウンドを含めた敷地の中に図書館やいろいろな機能を収めていく形になる。概要については、次の機会にお示しさせていただきたい。駐車場については、市民の皆様方から御意見を頂いており、ある程度は確保していく必要があると考えている。
六原委員	新しい図書館を検討する委員を集める際には、実際に図書館を利用している人が入ることが必要だと思う。図書館を利用している人の要望を酌み取り、公募するにしても、声掛けするにしても、利用している方を含めて組織を作っていただきたい。
生涯学習課長	今後の進め方について、利用する方の意見をどう吸い上げるかということについては、これから検討していく必要があると思う。ある程度利用いただいている方が集まっているところでまとめていきたい。どのようにするか、問い方ということについても検討していきたい。
五十嵐委員長	協議題（3）平成29年度の運営計画について、説明いただきたい。
図書館長	（「平成29年度の運営計画について」説明）
図書館長	イベント報告に関して、児童書リサイクル大会やぬいぐるみのお泊り会、大人向け朗読会を始めたり、いろいろなイベントを計画させていただいた。1月には「ふるさと三条かるた大会」を開催し、大人の方も参加していただけるイベントを実施した。できる限り一般の方の参加を促進していった。
五十嵐委員長	こういう事業を実施した結果、参加者は増えているのか。
図書館長	イベントによっては、参加者が増えているものもあるが、平均的には参加者数は横ばいである。
五十嵐委員長	特に評判がいいなど、印象に残った事業はあるか。
図書館長	昨年度開催した「三条かるた大会」は、子ども6名、大人6名の参

	<p>加だったが、参加者から、「子どもの頃にやったことがあり、懐かしい」「これこそ三条」という反響があった。</p> <p>しかけ絵本の盛り上がりということでは、ワークショップも好評だったため、今年もやりたいと考えている。</p> <p>また、子ども向けの「一日図書館員」は、1時間程度で募集定員となった。子どもたちの図書館員への期待感が感じられ、図書館の魅力を高めていく必要があると痛感した。やはり新しい事業や、共感性の高いイベントは好評だった。</p>
長谷川委員	一般ということで聞くと、読書会は増えているか。
図書館長	新たに今年1つ読書会が立ち上がった。読書会は三条市立図書館の特長と考えている。県内でも20団体以上もあるところは余りなく、図書館としても支援を続けていきたい。
五十嵐委員長	協議題(4)平成29年度4月以降の利用状況について、説明いただきたい。
図書館長	(「平成29年度4月以降の利用状況について」説明)
五十嵐委員長	平成29年度4月以降の利用状況について、質問、意見、要望、提案はあるか。
図書館長	プランターの企画は職員からアイデアをもらって始めた。いろいろな意見をまとめて、できる限り反映できるようにしたい。御利用いただいている皆様からも、是非アイデアを頂戴したい。
五十嵐委員長	小林委員。今年度の活動について、要望やアイデアはあるか。
小林委員	広報さんじょうや庭園の郷保内との連携など、よりよい活動がアピールできる傾向は非常にいいと思う。
五十嵐委員長	近藤委員、いかがか。
近藤委員	<p>嵐南保育所も今年度新しくなり、子どもの時から絵本を好きになってもらいたいと図書コーナーを設けている。にぎやかな活動に入れないうち子どもを図書コーナーに誘い、ゆったりした気持ちで本を読んでもらおうと考えている。どうしたら絵本を好きになるのか考えている。</p> <p>ものづくり学校との連携とあるが、嵐南保育所でも、図書館と一緒にできることがあれば、参加したいと思う。もしあれば声掛けをしてほしい。</p>
図書館長	図書館では特集を考えたり、施設を回るスタンプラリー等、入館促進の一環として事業を実施していきたいと考えている。
六原委員	小学校には読み聞かせの依頼を受けて行くことはあるが、中学校では図書館を利用する要望があるか。また、図書館から中学校への働き掛けはあるか。
図書館長	職場体験ということで、中学生に図書館体験していただくことはある。
梅田業務責任者	毎年春に小中学校の先生宛てに図書館案内や貸出し資料リスト等を送っている。それを活用していただくと大変ありがたい。

六原委員	子ども読書推進計画の中で、中学校、小学校の図書館機能の充実、また、図書館と図書室、学校図書館の連携ということが上がっているが、状況としては難しい。多感な中学生の時に、いい本に出会えたらと思う。中学校は読み聞かせという年齢ではないが、何か読書活動の連携ができると、もっと本に近づけるのではないかなと思う。
五十嵐委員長	中学校関係者がいないので、分からないが、朝読書は全部の学校でやっているのか。
小林委員	学校によってである。本に親しませる活動や読み聞かせのボランティアに入ってもらおうという活動は進めている。
梅田業務責任者	昨年度、第二中学校から、小学生に向けて読み聞かせを行うために読み聞かせの指導に来てほしいという依頼があり、生徒に指導した。また、夏休み中に読んでほしいブックリストを中学校全生徒に配布している。
五十嵐委員長	春の昔話を語る会の参加は、大人の参加が多いが、時間帯はいつか。
梅田業務責任者	午前中である。
図書館長	諸橋記念館の景色のきれいな場所をお借りした。やはり雰囲気がいいというのは大事だと思う。
五十嵐委員長	協議題（５）第２次三条市子ども読書推進計画について、説明を求めたい。
伊藤主任	（「第２次三条市子ども読書推進計画進捗管理」について説明）
五十嵐委員長	全体についての質問、意見はあるか。
小林委員	コンピュータで管理するようなシステムが学校に入れば、ずっと続くと思うが、それが今の三条市には無いということか。
関谷委員	ある学校の図書館ボランティアをしている。今年データ化ということで、データ入力の手伝いをしている。市では把握しているか。
伊藤主任	どちらの学校か？
関谷委員	大崎中学校である。小中一貫校の図書館になるので、データを入力中である。
五十嵐委員長	本来、図書館司書を１年でもいいから配置して、全部データ化をすれば終わるのだが、何せお金がない。 今年度の重点としての市立図書館の絵本の貸出し冊数６万冊以上、１８歳以下の登録率を４０％とあるが、１８歳以下の登録率というのは、どういうことか。
伊藤主任	三条市の１８歳以下の人口で１８歳以下の登録者数を割っている。
五十嵐委員長	１８歳以下ということは、高校生までか。中高校生の利用状況はどうなっているか。１２歳以上、１５歳以上、１８歳以下で利用率について、統計をとっているか。
図書館長	改めて分析をしてみたい。
関谷委員	教えていただけると、ありがたい。

五十嵐委員長	<p>社会教育関係でいろいろな行事をするが、中高校生の参加は少ない。家庭では、勉強しなさいと言われていていると思うが、図書館での中高校生の利用がどうなっているのか知りたい。そうすると登録率についても対策が見えてくる気がする。</p>
六原委員	<p>これから始まるコミュニティスクールは、地域と学校が一緒に活動していくものだが、図書館も行事に参加することは可能なのか。</p>
生涯学習課長	<p>コミュニティスクールの組織体制については、まだ詳細を聞いていない。学区ごとの地域の中で、地域の方がどう関わっていくかが検討課題になってくると思う。図書館自体も、市全体とか栄地区、下田地区等、その範囲での関わり方としては考えられるかどうか、ちょっと分からない状態だと思う。</p>
五十嵐委員長	<p>現段階では、コミュニティスクール自体がはっきりしないような状況がある。</p> <p>また、市立図書館の絵本貸出し冊数6万冊を目標というのも難しいのではないか。</p>
山田委員	<p>目標は分かったが、27年度から28年度で下がっているのをどういうふうに2,000冊上げるのかということ。それから、38.6%の登録率をいかにして40%まで引き上げるのかということである。去年と同じようなことをやっても駄目なわけで、どういうふうを考えて、どういうような事をやることによって上げようと思っているのか聞きたい。</p>
伊藤主任	<p>絵本の貸出し冊数が毎年落ちている。自動車文庫が増えているなら自動車文庫を、団体貸出しが増えているなら団体貸出しを頑張るとか、図書館ができることにも限界があると思う。ただ、今までやっていることで下がっているというのなら、どこかの段階で上げるために違う努力をしなければいけないというのは、本当に知恵を絞らなければならないところだと思う。例えば、おはなし会を増やしたり、定期的に保育所に本の情報を掲示してもらうなど。今、小・中学校に本の紹介を情報提供しているが、保育所でもできるのか。今までと同じことをやっていると、数値は落ちていく。ここで目標としての数値を掲げることによって、そのためにどうすればいいのかということを諮問する会でもありますので、図書館協議会の中でも検討いただきたい。図書館の全精力を上げて頑張りたいと思う。それでも、まだ難しいということも、読書離れの進んだ現代ではあるかと思うが、違う手立てを講じなくてはいけないと思う。</p>
五十嵐委員長	<p>ここで私たちが考えると。</p>
山田委員	<p>第二中学校で読み聞かせのために講座をしたとあるが、小中一貫教育の中で中学生が小学生に読み聞かせをするイベントをするとか。中学校に自動車文庫で行き、小学生が喜びそうな本を中学生に借りてもらおうというのはいいと思う。また、学習室に中高校生がたくさん来て</p>

	<p>いることを活用しない手はない。例えば、2階に来ている人が1階に降りてきて、カウンターでポイントをもらえて貯まると何か良いことがあるとか。ほっと一息コーナーを作って、中高生が簡単に読めそうな本を置いておく等々、学習室の中高校生を何とか取り込む方策を実施できないか。</p>
伊藤主任	<p>小学生、中学生やいろいろな方たちが本に触れるきっかけを図書館に作ってほしい。学習室に来ている子どもたちが本を手取るきっかけを作ることを広げていただきたい。学校に行くのが難しければ、中学生向けのお便りを増やしてみる、Twitterでアプローチしてみるなど、いろいろな方法を使って、きっかけを作ることが読書活動の刺激にもなると思う。そういう面でも頑張ってもらいたい。</p>
六原委員	<p>学習室に本は置けないか。例えば、平置きみたいな感じで、ネットで話題になっている本や、感動した本を置いて、勉強の途中に借りていこうとできないか。本に触れ、見る機会がなければ借りないし興味も示さない。出会う場所を提供してもらいたい。中学生に特化するのではないが、小さい子どもは、読み聞かせ等、親や一生懸命読んでくれる人がいて、結構手厚くなっている。中学校に入った途端、読んでももらえない。本との出会いの場や機会がたくさんあれば必ず芽は吹くと思うがどうか。</p>
図書館長	<p>今まで置いてなかったということはあるが、そこも含めて考えたいと思う。大変貴重な御意見をいただいた。目標数値も決めていただいたので、いろいろやっていきたい。</p>
山田委員	<p>本で育む生きる力で、この目標というのは、市立図書館の絵本の貸出しだが、子供たちにとっては学校図書館の本も、市立図書館の本も、同じように本である。下田の子たちにとっては下田分館まで行くのに遠い子もいる。本館でも日常的に来られるのはほんの一部だ。本来であれば、学校図書館も市立図書館も一律に市のものだから、学校図書館も入れて、全てについてデータ化しなければいけない問題だと思う。この数値も同じようなデータベースでなければ、どの程度三条市の子どもが本を手取っているのかが見えてこない。お金もかかるだろうが、それは急務である。学校図書館でも市立図書館の本を自由に借りられ、市立図書館でも「これは〇〇小学校にあるから、取り寄せます」というふうにできる、そういうことが必要だと思う。是非お考えいただきたい。</p>
五十嵐委員長	<p>なかなかお金のかかることで、難しい面もあるだろうが。</p>
山田委員	<p>お金がかかるから駄目と言って、何十年もたったわけである。それでは変えられないことがあると思う。</p>
五十嵐委員長	<p>図書館協議会の強い意見ということで、お伝えいただきたい。</p>
生涯学習課長	<p>お金のかかるということもそうだが、データベース化というのは時間がかかることだと思う。図書館協議会から、図書館と学校図書室の</p>

	一体的な利用が必要、という意見が出たことは伝えていく必要があると思う。
五十嵐委員長	具体的な方策はそんなところでよろしいか？学校、保育所から意見はあるか？
近藤委員	団体貸出しは貸出し冊数に入らないと言われた。団体で借りて、今は子どもたちに選ばせているが、例えば、保護者が迎えに来たとき中に入っていたら、一緒に借りていただけると何冊かまた増えるかと思ったが、カウントには入らないのか。
伊藤主任	基礎となる数字が、22年度の策定当時の数字で団体貸出しが入っていない。年度によって団体貸出し冊数が入っていたりいなかったりということがあってはならないと思う。比較して増減を検討していくためには、同じ数字の取り方でなければいけない。団体貸出しを含めると数値が増え、目標値を超えていくが、本当に子どもが借りている数が増えているのかとなると、まだ別問題になってしまう。比較対象としては同じ数字の取り方で比較した方が、現実に近い数字になるのではないか。
近藤委員	ブックリスト等いただけるのであれば、掲示をして、保護者の方に足が向くような働き掛けができると思う。機会があればお願いしたい。
小林委員	去年まで教育事務所において、図書館関係や学校がどういうふうか、どういうものを願っているかという調査をまとめたことがある。先ほど山田委員が言われたように、市システムと学校がうまくつながり、司書が行き来したりというものを求めているが、なかなかそこまでいかないというのが大半だった。そういうものが理想としてあるが、それに近いものに何とか近づけようとしている。目指すものとしては難しいだろうが、先ほどの意見を聞き、そうなるといいと思う。
五十嵐委員長	なかなか難しい面があるようだが、頑張ってくださいというところで、子ども読書推進計画はよろしいでしょうか。 その他、何かあるか。
金子課長	旧三条小学校跡地に、図書館機能を含む複合施設を建設する予定がある。図書館協議会委員の皆様から、新しい図書館をどのようにすればよいかの御意見をいただき、まとめさせていただきたい。通常の協議会を2、3回増やし、計画をお示ししながら、御意見をお聞かせいただく機会を設けたいと考えている。
五十嵐委員長	その他、何かあるか。 なければ、平成29年度第1回図書館協議会を閉会とする。